



第3回 敦賀港港湾脱炭素化推進協議会

8月20日、新日本海フェリー敦賀フェリーターミナル（図1）の3階会議室（図2）にて、「第3回 敦賀港港湾脱炭素化推進協議会」が開催され（図3）、ふくい水素エネルギー協議会事務局の羽木も参加しました。

「敦賀港カーボンニュートラルポート（CNP）協議会」から「敦賀港港湾脱炭素化推進協議会」に移行して第1回の会議が、昨年12月25日に、そして第2回の会議が7月10日に開催され、今回の第3回が取り纏めの会議でした。事務局は、福井県土木部 港湾空港課です。

会議の配布資料、意見交換の内容については公表しないことになっていますが、第1回、第2回の概要が事務局のホームページ（<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kouwan/tsuruga/tsurugacnp.html>）にupされていたので、その内容を次に示します。

(1) 第1回 敦賀港港湾脱炭素化推進協議会の概要

1. 敦賀港港湾脱炭素化推進協議会の設置要綱が事務局から説明され、会議開催日の12月25日から施行することが協議会として承認されました。協議会の会員は、「敦賀港カーボンニュートラルポート（CNP）協議会」から引き継がれ、ふくい水素エネルギー協議会はオブザーバーとして加わることになりました。
2. 港湾脱炭素化推進計画の作成における主な流れと、国のマニュアルに基づく計画作成時の留意点などが事務局から説明され、事務局に推進計画の作成を一任しました。
3. 敦賀港港湾脱炭素化推進計画の対象範囲、脱炭素化の取組方針、現況の温室効果ガス排出量の推計結果について意見交換しました。
4. 今後のスケジュールとして、令和7年度上半期を目途とした「敦賀港港湾脱炭素化推進計画」の策定が協議会として確認されました。

(2) 第2回 敦賀港港湾脱炭素化推進協議会の概要

1. 第1回の会議の内容を考慮して、「敦賀港港湾脱炭素化推進計画」の対象範囲、脱炭素化の取組方針、温室効果ガス排出量の推計などを見直して修正したことが事務局から説明され、協議会として了承されました。
2. 港湾脱炭素化推進計画の数値的な目標設定（KPI）や、港湾脱炭素化促進事業及びその実施主体と事業効果の見込みについて、事務局から説明があり、協議会として了承されました。
3. 計画策定後の評価等の実施体制や将来構想・ロードマップ案について事務局から説明があり、協議会として確認されました。
4. これまでの協議会での意見などを考慮した事務局による敦賀港港湾脱炭素化推進計画（案）の作成が協議会として了承されました。
5. 「敦賀港港湾脱炭素化推進計画」と関係する「福井県水素・アンモニアサプライチェーン構想」について、この事務局となっている福井県エネルギー課の担当者から説明があり、県内および隣接府県の水素・アンモニアの需要供給ポテンシャルと利活用拡大に向けた将来構想への理解が深まりました。

(3) 第3回 敦賀港港湾脱炭素化推進協議会

第1回、第2回の会議を経て、敦賀港港湾脱炭素化を推進するための計画書（案）が事務局で作成されましたので、第3回の会議が開催され、その内容について審議しました。この結果を考慮して、計画書の修正などが事務局で行われ、協議会としての計画書を作成する今後の作業内容と、このためのスケジュールとが事務局から説明され、協議会として情報共有されました。現状では、審議、計画書の内容を公表せず、後日、計画書の内容が公表されることになっています。



図1 新日本海フェリー敦賀フェリーターミナル

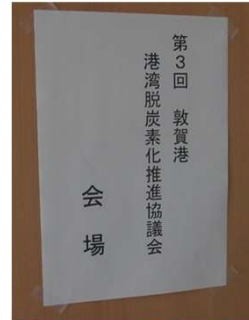


図2 会議室入口の掲示



図3 敦賀港港湾脱炭素化推進協議会

若狭湾エネルギー研究センター主催イベント「てんこもり2025」

8月23日、敦賀市の福井県若狭湾エネルギー研究センター（エネ研）で「てんこもり2025」が開催されました。このイベントは、毎年、8月下旬の土曜日に開催されており、エネ研企画の(1)「ミニ北陸新幹線乗車体験」、「ボトルフラワーを作ろう」、「レーザーを使ってオリジナルキーホルダーを作ろう」、「スーパーボールすくい」などの就学前の幼児、小学校児童を主に対象としたコーナー、(2)「ソーラーカーを作ろう」、「顕微鏡で見てみよう」など

の小学校高学年を対象とした体験コーナー、(3)研究成果を示す「パネルの展示」、「施設見学」などの大人を対象としたものに加えて、(a)美浜町エネルギー環境教育体験館「きいばす」による「大気圧の実験」、(b)福井県立敦賀産業技術専門学院による「電気工事のお仕事体験」、(c)日本原子力研究開発機構による「スライムを作ろう」、(d)関西電力による「いろいろな発電方法を体験しよう」など、各種団体・企業の協力を得たコーナーもありました。このような「てんこもり2025」イベントで、ふくい水素エネルギー協議会が協力して、「水素エネルギーを身近に感じてみよう」のコーナーが設けられました。

エネ研建物入り口横(図4)では、福井トヨタに協力頂き、トヨタ自動車の新型クラウン(セダン) FCEVの展示と、ニチコン製の給電装置(Power Mover Lite)のデモ展示が行われました(図5)。燃料電池(FC)での発電を継続して給電すると、運転席のパネルには消費電力と給電可能時間がリアルタイムで表示されます(図6)。なお、この給電装置の出力は3.0kW(1.5kW×2口)で、1家族分の電力にほぼ対応します。

エネ研建物入り口の新型クラウンFCEVの横に、この場所が「水素エネルギーを身近に感じてみよう」のコーナーであることを示す看板(図7)と、クイズラリー用の問題が書かれた看板(図8)が設置され、この看板前に、トヨタ紡織の協力を得て、燃料電池アシスト自転車(図9)が展示されていました。この燃料電池アシスト自転車は、燃料電池部のカバーが外されて、構造がよく分かるようになっていました。燃料電池自動車(クラウンFCEV)の燃料電池と比較して、極めて小さな燃料電池が搭載されており、これに驚かれる方が多くおられました。

クイズラリーへの参加によって「スーパーボールすくい」に参加できることから、この『ラリー⑥』の看板前には子供を連れた多くの保護者が来られました。この時が対話のチャンスで、「水素」、「燃料電池」、「嶺南地域での水素利活用の取り組み」、「燃料電池自動車」などについてお話しさせて頂きました。この中には、「水素」に強い興味を持ち、多くの知識を有する福井県出身の大学生がおられました。このような若者にこれからの福井県の活性化策を期待したいと思います。



図4 「てんこもり2025」イベントが開催された若狭湾エネルギー研究センターの入り口



図5 福井トヨタに協力頂いた新型クラウン(セダン) FCEVの展示と、ニチコン製の給電装置のデモ展示(赤い○)



図6 給電を継続している際の運転席パネルでの消費電力と給電可能時間の表示(赤い○)



図7 「水素エネルギーを身近に感じてみよう」のコーナーであることを示す看板



図8 クイズラリー用の問題が書かれた看板



図9 燃料電池部のカバーが外された燃料電池アシスト自転車

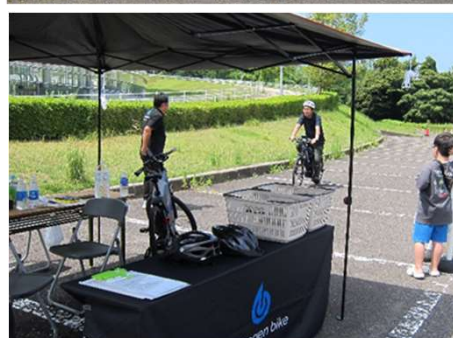


図10 燃料電池アシスト自転車(水素自転車)の試乗会

これら看板から少し離れた駐車場にテントを設営し、ここを“受付”とした燃料電池アシスト自転車(水素自転車)の試乗会も開催されました(図10)。自転車がロードバイク型で大人向けになっており、ヘルメットを着用した大人が試乗して、子供達が見学する風景がよく見られました。アシスト力の大きさに多くの方が驚かれています。主に敦賀市で、普及活動が行われており、駅前でのシェア自転車としての活用などを検討してほしいですね。

一般社団法人 ふくい水素エネルギー協議会
〒919-0411 福井県坂井市春江町藤鷲塚37-9
株式会社 ナカテック内 事務局 羽木
TEL : 0776-58-3930 FAX : 0776-51-5144